

とうきょうとしょうがいしゃさべつかいしょう 東京都障害者差別解消ハンドブックの改訂について

1 がいよう 概要

(1) もくてき 目的

ほん
本ハンドブックは、じぎょうしゃ、くしちょうそんおよ、とちょうないかくぶきよく、しょうがいしゃさべつかいしょうほう、てきせつ
事業者や、区市町村及び都庁内各局が障害者差別解消法に適切
たいおう
に対応するための資料として、へいせい28ねん3がつ、さくせい
平成28年3月に作成した。

こんねんと、じょうれい、ないようとう、あら、も、こ、かたち、かいてい、はか
今年度、条例の内容等を新たに盛り込む形で、改訂を図る。

(2) かんせいじき 完成時期 平成30年9月末を予定

(3) さくせいぶすう 作成部数

- まんぶ、すみじばん、さくせいよてい
・ 2万部（墨字版）作成予定
- ふ、てんじ、かくだい、もじ、ばん、さくせい
・ ルビ振り、点字、拡大文字、デジ版を作成

(4) はいふさき 配布先

じぎょうしゃだんたい、しょうがいしゃだんたい、くしちょうそん、とちょうかくきよく、よてい
事業者団体、障害者団体、区市町村、都庁各局などを予定
ふくしほけんきよく、けいしゆつ、おこな
また、福祉保健局ホームページにて掲出を行う。

2 かいていないよう、しょうさい、うらめん、さんしょう 改訂内容（詳細は裏面を参照）

(1) じょうれい、ないよう、ついか 条例の内容を追加

じょうれいせいいてい、はいけい、けいさい
条例制定の背景や、ポイントを掲載する。

(2) ぐたいてき、たいおうじれい、ついか 具体的な対応事例の追加

じぎょうしゃ、ごうりてきはいろ、ていきよう、ぎむか、あ、さんこう、じれい、ついか
事業者の合理的配慮の提供の義務化に当たり、参考となる事例を追加する。

(3) た、わ、ひょうき、へんこうおよ、とう、ついか その他、分かりやすくするため表記の変更及びイラスト等を追加

3 スケジュール

がつけじゅん ○5月下旬

だいいちこうさくせいこ、しょうがいしゃさべつかいしょうちいききょうぎかい、かくいいんおよ
第一校作成後、障害者差別解消地域協議会各委員及びハンドブ
さくせいじ、だんたいあ、ていじ、いけんぼしゅう、おこな
ック作成時ヒアリング団体宛てに提示し、意見募集を行った。

がつ ○6月

じょうきいけん、しゅうやく、うえ、だいにこう、さくせい
上記意見を集約した上で、第二校を作成

がつ、とおか、ほんじつ ○7月10日（本日）

だいにこう、ちいききょうぎかい、ていじ
第二校を地域協議会にて提示

がつまつ ○7月末

あんかくてい
案確定

がつまつ ○9月末

すみじばん、かんせい、はいふ
墨字版の完成・配布

※ てんやくばんとうかくしゅじょうほうほしょうたいおうばん、かんせいじき、おそ、かのうせい、むね
※ 点訳版等各種情報保障対応版については、完成時期が遅くなる可能性がある旨、あら
ごりょうしょう、ねが
かじめ御了承をお願いいたします。

改訂後ハンドブックの構成について

- 第1 障害者差別解消法とは（更新）
⇒ 条例の規定・障害の社会モデルに係る記述を追記
- 第2 障害者差別を解消するには
1 不当な差別的取扱いの禁止
2 合理的配慮の提供（更新）
⇒ 条例の規定（事業者の合理的配慮の義務化）を追記
- 第3 東京都障害者差別解消条例とは（新規）
1 条例制定の背景
2 事業者による「合理的配慮の提供」を義務化
（1）条例における事業者とは（定義）
（2）都内で事業を行う事業者に求められること
3 相談体制について
（1）広域支援相談員による相談受付
（2）広域支援相談員の業務
（3）相談体制における区市町村との関係について
4 紛争解決の仕組み
（1）あっせん （2）勧告 （3）公表
5 共生社会実現のための基本的施策
（1）情報保障の推進 （2）言語としての手話の普及 （3）教育の推進
（4）事業者による取組の支援
⇒ 条例の概要を分かりやすくまとめ、掲載する。
- 第4 様々な場面における対応の例（更新）
1 対応の基本と考え方 2 様々な場面における対応の例
- 第5 障害特性について（更新）
1 視覚障害 2 聴覚障害 3 盲ろう 4 肢体不自由
5 構音障害 6 失語症 7 高次脳機能障害 8 内部障害
9 重症心身障害・その他医療的ケアが必要な者 10 知的障害
11 発達障害 12 精神障害 13 難病
⇒ 東京都心身障害者福祉センター作成の「障害のある方への接遇マニュアル」内容を一部盛り込む。
- 第6 相談体制の整備等（更新）